

J Aと心強い 防災協定



めぐみの農業協同組合が、地震や豪雨など災害時における地域相互支援として、関市をはじめ管内の中濃地域全13市町村と防災協定を締結。わかさプラザで関係市長らが出席して調印式を行いました。協定は、農協が所有・調達可能な食料や

生活必需品などの物資を提供するほか、炊き出し、物資の集積・仕分けに必要な施設および人員の提供、農地等被害状況調査に必要な職員の派遣など、支援活動にあたるものです。市と農協の協力体制で、市民の安全・安心なまちづくりを目指します。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



手をあげて横断歩道渡ります

安桜小学校で、全校児童 505 人が学年ごとに分かれて、安全な道路歩行や自転車運転、交通ルールを学ぶ教室が開かれました。実際に学校近くの道路に出て、関警察署の職員から、信号交差点での横断歩道の安全な渡り方などの指導を受けました。児童らは、自転車の手放し運転はしない、横断歩道は手をあげて渡る、命を大切にすることを誓い合いました。

自分できのこ育てます

「郷土の未来をひらくふるさと学習」の一環で、板取中学校生徒が平茸菌打ち体験をしました。板取グリーンクラブ会員の指導を受け、桜や榎の木などを輪切りにしたものを2つ1組にして、片方におがくずと米ぬか、水を混ぜ合わせて切り口に塗って、平茸菌を満遍なく置き、そこにもう片方を載せる作業をしました。今後も菌の世話をしたり、猿害対策についても継続して学習し、収穫の喜びを得ようとするものです。





お互いの顔見て話すテレビ会議

市が進めていたブロードバンド（情報通信基盤）事業が完成し、市役所と板取小学校を結んで、児童と尾藤市長が交信するテレビ会議がありました。児童らは東日本大震災で学習したことを発表したほか、市の防災対策について質問。市長は高画質、高音質のテレビモニターを通して、耐震工事や備蓄品について紹介したり、自分の家族と話し合いをしてくださいとリアルタイムでメッセージを送りました。

まちの防災力を高めよう

上白金公民館で防災・危機管理講座が開かれ、地域住民約240人が参加して、地震や風水害の対策について意識の高揚を図りました。地元の1級建築士が地震のメカニズムや断層について説明したり、市職員が無料木造住宅耐震診断などについて紹介。尾藤市長も講演して、安全・安心な環境づくりのため、市民同士で声を掛け合い、助け合う習慣をつけてほしいと呼びかけ、受講者は熱心に聞き入っていました。



初めて鵜飼を見たよ

市内の小学生を対象にした小瀬鵜飼観覧事業の最初の乗船客、武儀西小学校4・5年生児童16人が長良川での伝統漁法の醍醐味を味わいました。屋形船に乗り込み、鵜匠の説明を聞いた後、川を下りながらかがり火の中での実演を堪能。下船場で、鮎を吐き出す鵜の様子も間近で見学。「鵜が魚を捕る姿が印象に残りました。家族に自慢したい」と話していました。

熱戦繰り広げわんぱく相撲

相撲を通じて小学生の豊かな心身を育み、礼儀作法を身につけてほしいと毎年恒例の「わんぱく相撲闘場所」が開催され、市内の児童253人が出場しました。総合体育館に作られた土俵で、まわしを締めた小さな力士たちが迫力ある取り組みを繰り広げました。家族や友達の声援を受けながら、精いっぱいぶつかり合うと会場は興奮と熱気に包まれていました。



こぼれ話



7月24日のアナログテレビ放送から地上デジタル放送への完全移行まで残り約1カ月。皆さん地デジ化はもうお済みですか？テレビは買い替えたけれど、実はアナログ放送を受信していませんか？

ところで、地デジ対応テレビの多くには、リモコンに「d」ボタンなるものがあります。これはデータ放送というサービスで、放送中の画面を小さく表示してできるスペースに、天気予報やニュース、道路交通情報などを文字や画像により提供してくれます。

ぎふチャンのデータ放送では「市町村くらしの情報」で県内市町村の情報を提供しています。一度に掲載できるのは各市町村5項目ずつで、文字数にも制限があるため、なかなか盛りだくさんという訳にはいきませんが、イベントや休日診療当番などの情報を掲載しています。また、CCN（ケーブルテレビ）やNHKのデータ放送でも関市の情報を提供していますので、ぜひご活用ください。（一部、データ放送に対応していない機器もありますので、ご了承ください。）また、地デジについてのご相談は、今号14ページをご覧ください。